

2020年6月9日

中日本高速道路株式会社

2020年3月期 決算概要（連結）

1. 業績の概況

当連結会計年度（自 2019年4月1日 至 2020年3月31日）（単位：億円）

	2019年度 (第15期) A	2018年度 (第14期) B	増 減	
			金額 A-B	% A/B*100
営業収益	10,314	14,552	▲4,238	70.9
高速道路事業	9,547	13,770	▲4,222	69.3
(料金収入)	6,897	6,934	▲36	99.5
(道路資産完成高等)	2,649	6,835	▲4,186	38.8
関連事業	767	782	▲15	98.0
(休憩所事業)	317	326	▲8	97.4
(その他事業)	449	456	▲6	98.5
営業費用	10,170	14,402	▲4,232	70.6
高速道路事業	9,446	13,673	▲4,226	69.1
(道路資産賃借料)	4,915	5,010	▲94	98.1
(道路資産完成原価)	2,640	6,825	▲4,185	38.7
(管理費用等)	1,891	1,837	53	102.9
関連事業	724	730	▲5	99.2
(休憩所事業)	278	274	4	101.5
(その他事業)	445	455	▲9	97.8
営業利益	143	149	▲5	96.0
高速道路事業	100	97	3	103.6
関連事業	42	52	▲9	81.7
経常利益	163	166	▲2	98.2
当期純利益 ※	111	101	10	110.6

実績金額は、億円未満の端数を切り捨てて表示しております。

※1 当期純利益は、「親会社株主に帰属する当期純利益」を記載しております。

※2 2020年度計画は、新型コロナウイルス感染症による影響を現時点で合理的に算定することが困難であることから、未定といたします。

(注) 当社グループは、経営組織の形態と事業の特性に基づいて、事業を以下のように区分しています。

事業	業務内容	
高速道路事業	建設事業	高速道路の新設、改築
	保全・サービス事業	高速道路の維持、修繕、災害復旧その他の管理
関連事業	休憩所事業	高速道路内におけるサービスエリアの建設、管理及び運営
	その他（関連）事業	受託事業、トラックターミナル事業、占用施設活用事業、物販事業、旅行事業、海外事業、不動産開発事業等

2. トピックス

(1) 高速道路事業

(実施した施策)

○ネットワークの整備

- ・東海環状自動車道 (大野神戸 IC~大垣西 IC 間) 8km…2019年12月14日開通
- ・新東名高速道路 (伊勢原 JCT~伊勢原大山 IC 間) 2km…2020年3月7日開通
- ・東海環状自動車道 (関広見 IC~山県 IC 間) 9km…2020年3月20日開通

※IC…インターチェンジ、JCT…ジャンクション

(通期業績)

○営業収益は、9,547億円(前年同期比4,222億円減)となりました。

- ・料金収入は、6,897億円(同36億円減)でした。

これは、新型コロナウイルス感染拡大の影響などによるものです。

また、1日あたりの取扱通行台数は197万台(同0.1%減)でした。

- ・道路資産完成高等は、2,649億円(同4,186億円減)でした。

これは、前期のような新名神高速道路(新四日市 JCT~亀山西 JCT 間)の新規開通といった大規模な新規開通がなかったことによる反動減です。(前期開通:新名神高速道路他3区間 54km)

○営業費用は、9,446億円(同4,226億円減)となりました。

- ・道路資産賃借料は、4,915億円(同94億円減)でした。
- ・道路資産完成原価は、2,640億円(同4,185億円減)でした。(要因は、道路資産完成高等と同様)
- ・管理費用等は、1,891億円(同53億円増)となりました。

これは、点検や維持補修などの維持修繕費用が増加したことによるものです。

○上記の結果、営業利益は100億円(同3億円増)となりました。

(2) 関連事業

(実施した施策)

○魅力あるサービスエリアづくり

- ・東名高速道路 浜名湖サービスエリアは、「EXPASA 浜名湖」としてグランドオープンしました。コンビニを新設し、フードコートの座席数を大幅に増やすことで利便性を向上させるとともに、浜名湖産うなぎを使用した鰻重や、浜松餃子など、地元の食が楽しめるメニューを充実させました。
- ・東名高速道路 海老名サービスエリア(下り線)は、第一期リニューアルオープンとして、フードコートの一部改良と併せて、商業施設を増築し、ショッピングコーナーやカフェ、スイーツコーナーを新設しました。
- ・台湾のフォルモサ高速公路にある清水サービスエリアの運営に参入しました。参入にあたり、当社の子会社である中日本エクシス(株)は台湾に現地法人「アイクスイーコクサイヨフシユウケンコウシ艾客思國際股份有限公司」を設立しました。

○その他(関連)事業の推進

- ・社宅跡地を活用した宅地分譲事業や、高速道路の周遊と観光施設や宿泊施設の利用券をセットにした商品の拡充などに取り組みました。また、当社の海外事業のさらなる発展及びインフラシステムの海外展開の推進のため、米国現地法人「NEXCO Highway Solutions of America Inc.」、フィリピン国現地法人「NEXCO-CENTRAL Philippines Inc.」を設立し、事業を開始しました。

(通期業績)

○営業収益は、767億円(前年同期比15億円減)となりました。

これは、新型コロナウイルス感染拡大の影響により休憩所事業収入が減少したことや国・地方公共団体等から受託した工事出来高の減少によるものです。

○営業費用は、724億円(同5億円減)となりました。

これは、国・地方公共団体等から受託した工事出来高の減少によるものです。

○上記の結果、営業利益は42億円(同9億円減)となりました。

以上